

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7665946号
(P7665946)

(45)発行日 令和7年4月22日(2025.4.22)

(24)登録日 令和7年4月14日(2025.4.14)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 B 13/00 (2006.01)

A 4 7 B 13/00 B

A 4 7 B 13/02 (2006.01)

A 4 7 B 13/00 Z

A 4 7 B 13/02

請求項の数 9 (全16頁)

(21)出願番号	特願2020-167375(P2020-167375)	(73)特許権者	000001351
(22)出願日	令和2年10月2日(2020.10.2)		コクヨ株式会社
(65)公開番号	特開2022-59658(P2022-59658A)		大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
(43)公開日	令和4年4月14日(2022.4.14)		1 号
審査請求日	令和5年9月14日(2023.9.14)	(74)代理人	100085338
			弁理士 赤澤 一博
		(72)発明者	大川 航平
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
			1 号 コクヨ株式会社内
		(72)発明者	長谷川 徹
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
			1 号 コクヨ株式会社内
		審査官	神尾 寧

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 デスク

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天板の反使用端縁側に上方に開放された配線案内溝が設けられたデスク本体と、前記配線案内溝に沿って移動し得るように当該配線案内溝に支持された可動部材とを備えてなるデスクであって、

前記可動部材が、前記天板の上面と略面一をなす上向面を有した上壁及び当該上壁の左右両側端部から垂下した左右の垂下壁と、前記上向面に隣接して設けられ下方に向かって凹んでなる凹陷部分を有し当該凹陷部分により物品を支持し得るようにした機能部と、前記上向面よりも下に設けられ当該可動部材の幅方向全域に亘って前記配線案内溝と協働して配線を左右方向に連通可能なトンネルを有し、このトンネルを構成するものであり上方に向かつて凹んだ形状をなしたトンネル形成部が前記左右の垂下壁に設けられているデスク。

10

【請求項 2】

天板の反使用端縁側に上方に開放された配線案内溝が設けられたデスク本体と、前記配線案内溝に沿って移動し得るように当該配線案内溝に支持された可動部材とを備えてなるデスクであって、

前記可動部材が、前記天板の上面と略面一をなす上向面と、この上向面に隣接して設けられ下方に向かって凹んでなる凹陷部分を有し当該凹陷部分により物品を支持し得るようにした機能部と、前記上向面よりも下に設けられ上方に向かつて凹んだ形状をなし前記配線案内溝と協働してトンネルを形成し得るトンネル形成部とを備え、

前記配線案内溝が、後向面を有し左右方向に延びてなる前溝壁と、この前溝壁よりも後側

20

に配設され前向面を有し左右方向に延びてなる後溝壁と、上向面を有し前記前溝壁と前記後溝壁との下端部間に配された底溝壁と含んで構成されたものであり、前記前溝壁の後向面と前記後溝壁の前向面との間の離間寸法が、上方に向かって漸次増大するように構成されているデスク。

【請求項 3】

前記可動部材が、前記前溝壁に係合し得る前係合部と、前記後溝壁に係合し得る後係合部とを備えたものである請求項 2 記載のデスク。

【請求項 4】

前記前溝壁が、前記天板の反使用端縁により構成されたものであり、前記後溝壁が、前記天板の反使用端縁側に配された幕板から延設されたものである請求項 2 又は 3 記載のデスク。

10

【請求項 5】

前記後溝壁の前向面が、後方に向かって漸次上側に位置するように傾斜したものである請求項 2、3 又は 4 記載のデスク。

【請求項 6】

前記天板を支持する左右の脚体を有し、これら左右の脚体が前記幕板により連結されている請求項 4 記載のデスク。

【請求項 7】

前記配線案内溝が、前記幕板の上端部に沿って設けられたものである請求項 4 又は 6 記載のデスク。

20

【請求項 8】

前記天板の上面と前記可動部材の上向面とが協働して物品を載置し得る載置面を形成し得るようになっていている請求項 1、2、3、4、5、6 又は 7 記載のデスク。

【請求項 9】

天板の反使用端縁側に上方に開放された配線案内溝が設けられたデスク本体と、前記配線案内溝に沿って移動し得るように当該配線案内溝に支持された可動部材とを備えてなるデスクであって、

前記可動部材が、前記天板の上面と略面一をなす上向面を有した上壁及び当該上壁の左右両側端部から垂下した左右の垂下壁と、前記上向面よりも下に設けられ当該可動部材の幅方向全域に亘って前記配線案内溝と協働して配線を左右方向に連通可能なトンネルを有し、このトンネルを構成するものであり上方に向かって凹んだ形状をなしたトンネル形成部が前記左右の垂下壁に設けられているデスク。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、デスクに関する。

【背景技術】

【0002】

従来のデスクには、天板の反使用端縁に設けられた配線案内溝を配線カバーにより開閉可能に構成したものがある（例えば、特許文献 1 を参照。）。

40

【0003】

近年では、オフィス等における執務者の執務形態が多様になっているため、配線案内溝の一部を開放させたままのほうが配線を柔軟に利用し易いという場合が少なくない。

【0004】

その一方で、種々の物品を天板の反使用端縁側の領域に設置したいというニーズも存在している。特に、スマートフォンやディスプレイ等の物品については、執務者の使いやすさに資する好適な姿勢で天板の反使用端縁側に設置できることが望まれている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

50

【文献】特開 2010 - 63663 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、以上のような事情に着目してなされたものであり、少なくとも、配線案内溝の使い勝手の良さを維持しつつ天板の反使用端縁側が物品を設置可能な領域として柔軟に利用され得る構成を備えたデスクを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

すなわち、本発明は次の構成をなしている。

10

【0008】

請求項 1 に記載の発明は、天板の反使用端縁側に上方に開放された配線案内溝が設けられたデスク本体と、前記配線案内溝に沿って移動し得るように当該配線案内溝に支持された可動部材とを備えてなるデスクであって、前記可動部材が、前記天板の上面と略面一をなす上向面を有した上壁及び当該上壁の左右両側端部から垂下した左右の垂下壁と、前記上向面に隣接して設けられ下方に向かって凹んでなる凹陷部分を有し当該凹陷部分により物品を支持し得るようにした機能部と、前記上向面よりも下に設けられ当該可動部材の幅方向全域に亘って前記配線案内溝と協働して配線を左右方向に連通可能なトンネルを有し、このトンネルを構成するものであり上方に向かって凹んだ形状をなしたトンネル形成部が前記左右の垂下壁に設けられているデスクである。

20

【0009】

請求項 2 に記載の発明は、天板の反使用端縁側に上方に開放された配線案内溝が設けられたデスク本体と、前記配線案内溝に沿って移動し得るように当該配線案内溝に支持された可動部材とを備えてなるデスクであって、前記可動部材が、前記天板の上面と略面一をなす上向面と、この上向面に隣接して設けられ下方に向かって凹んでなる凹陷部分を有し当該凹陷部分により物品を支持し得るようにした機能部と、前記上向面よりも下に設けられ上方に向かって凹んだ形状をなし前記配線案内溝と協働してトンネルを形成し得るトンネル形成部とを備え、前記配線案内溝が、後向面を有し左右方向に延びてなる前溝壁と、この前溝壁よりも後側に配設され前向面を有し左右方向に延びてなる後溝壁と、上向面を有し前記前溝壁と前記後溝壁との下端部間に配された底溝壁と含んで構成されたものであり、前記前溝壁の後向面と前記後溝壁の前向面との間の離間寸法が、上方に向かって漸次増大するように構成されているデスクである。

30

【0010】

請求項 3 に記載の発明は、前記可動部材が、前記前溝壁に係合し得る前係合部と、前記後溝壁に係合し得る後係合部とを備えたものである請求項 2 記載のデスクである。

【0011】

請求項 4 に記載の発明は、前記前溝壁が、前記天板の反使用端縁により構成されたものであり、前記後溝壁が、前記天板の反使用端縁側に配された幕板から延設されたものである請求項 2 又は 3 記載のデスクである。

【0012】

40

請求項 5 に記載の発明は、前記後溝壁の前向面が、後方に向かって漸次上側に位置するように傾斜したものである請求項 2、3 又は 4 記載のデスクである。

【0013】

請求項 6 に記載の発明は、前記天板を支持する左右の脚体を有し、これら左右の脚体が前記幕板により連結されている請求項 4 記載のデスクである。

【0014】

請求項 7 に記載の発明は、前記配線案内溝が、前記幕板の上端部に沿って設けられたものである請求項 4 又は 6 記載のデスクである。

【0015】

請求項 8 に記載の発明は、前記天板の上面と前記可動部材の上向面とが協働して物品を

50

載置し得る載置面を形成し得るようになっている請求項 1、2、3、4、5、6 又は 7 記載のデスクである。

請求項 9 に記載の発明は、天板の反使用端縁側に上方に開放された配線案内溝が設けられたデスク本体と、前記配線案内溝に沿って移動し得るよう¹⁰に当該配線案内溝に支持された可動部材とを備えてなるデスクであって、前記可動部材が、前記天板の上面と略面一をなす上向面を有した上壁及び当該上壁の左右両側端部から垂下した左右の垂下壁と、前記上向面よりも下に設けられ当該可動部材の幅方向全域に亘って前記配線案内溝と協働して配線を左右方向に連通可能なトンネルを有し、このトンネルを構成するものであり上方に向かつて凹んだ形状をなしたトンネル形成部が前記左右の垂下壁に設けられているデスクである。

【発明の効果】

【0016】

以上説明したように本発明によれば、少なくとも、配線案内溝の使い勝手の良さを維持しつつ天板の反使用端縁側が物品を設置可能な領域として柔軟に利用され得る構成を備えたデスクを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本発明の一実施形態を示す斜視図。

【図2】同実施形態における右側面図。

【図3】同実施形態における平面図。

【図4】同実施形態における底面図。

【図5】同実施形態における正面図。

【図6】同実施形態における背面図。

【図7】同実施形態における斜視図。

【図8】同実施形態における斜視図。

【図9】図5におけるX-X線断面図。

【図10】図9における部分拡大図。

【図11】同実施形態における分解斜視図。

【図12】同実施形態における分解斜視図。

【図13】同実施形態における斜視図。

【図14】同実施形態における斜視図。

【図15】同実施形態における斜視図。

【図16】同実施形態における斜視図。

【図17】同実施形態における一使用例を示す斜視図。

【図18】同実施形態における一使用例を示す斜視図。

【発明を実施するための形態】

【0018】

以下、本発明の一実施形態を、図1～18を参照して説明する。

【0019】

デスクは、天板1の反使用端縁1e側に上方に開放された配線案内溝Cが設けられたデスク本体Aと、配線案内溝Cに沿って移動し得るよう⁴⁰に当該配線案内溝Cに支持された可動部材Bとを備えたものである。床面と天板1の下面との間には下肢空間spが形成されている。

【0020】

以下、このデスクの構成について詳述する。

【0021】

デスク本体Aは、左右方向に長手をなす矩形板状をなす天板1と、天板1を支持する左右の脚体2と、左右方向に延びてなる起立板状の幕板3Aを含んでなり左右の脚体2を連結する連結架材3と、天板1の反使用端縁1e側に設けられ天板1の反使用端縁1eと連結架材3の上部を主体に構成された左右方向に延びてなる配線案内溝Cとを備えている。⁵⁰

10

20

30

40

50

【 0 0 2 2 】

天板 1 は、平面視において左右方向に延びた長方形をなしている。天板 1 の下面における左右両端部には、左右の脚体 2 を取り付けるためのナット部 n 1、n 2 が設けられている。天板 1 の下面における後端部には連結架材 3 を取り付けるためのナット部 n 4 が設けられている。

【 0 0 2 3 】

なお、天板 1 の下面における前端部及び前後方向及び左右方向の中央部には引き出し等のオプションを取り付ける際に使用される孔 1 1 が穿設されている。

【 0 0 2 4 】

左右の脚体 2 は、天板 1 の下面における左右両側部に接続し天板 1 を支持し得るものである。左右の脚体 2 は、左右に対をなして設けられている。左の脚体 2 と右の脚体 2 は対称形状をなしている。

10

【 0 0 2 5 】

左右の脚体 2 は、四角柱状の外形をなし上下方向に延びてなる前脚 2 1 及び後脚 2 2 と、四角柱状の外形をなし前脚 2 1 及び後脚 2 2 の上端部間を繋ぐとともに天板 1 の下面に接続する連結フレーム 2 3 と、四角柱状の外形をなし連結フレーム 2 3 の前部から内方に向かって片持ち梁状に突設され天板 1 の下面に接続する片持ちフレーム 2 4 とを備えている。

【 0 0 2 6 】

前脚 2 1 は、上下方向に直線状に延びてなる金属製の角パイプ材を主体に構成されたものである。前脚 2 1 は、下方に向かって漸次前方に位置するように傾斜した姿勢をなしている。前脚 2 1 の下端にはアジャスタ f が設けられている。前脚 2 1 の上端部は天板 1 により覆われるようになっている。前脚 2 1 における上端部の内側面は、連結フレーム 2 3 における前端部の外側面に剛結されている。

20

【 0 0 2 7 】

後脚 2 2 は、上下方向に直線状に延びてなる金属製の角パイプ材を主体に構成されたものである。後脚 2 2 は、略鉛直方向に延びた姿勢をなしている。後脚 2 2 の下端にはアジャスタ f が設けられている。後脚 2 2 の上端部はカバー体 D により覆われるようになっている。後脚 2 2 における上端部の内側面は、連結フレーム 2 3 における後端部の外側面に剛結されている。後脚 2 2 における上部の内側面には、上下二箇所に連結架材 3 を取り付けるためのナット部 n 3 が設けられている。

30

【 0 0 2 8 】

連結フレーム 2 3 は、前後方向に直線状に延びてなる金属製の角パイプ材を主体に構成されたものである。連結フレーム 2 3 における上下方向の幅寸法は左右方向の幅寸法よりも長く設定されている。連結フレーム 2 3 の上面は、天板 1 の下面に添接し得るようになっている。

【 0 0 2 9 】

連結フレーム 2 3 における前端部の外側面は、前脚 2 1 における上端部の内側面に剛結されている。連結フレーム 2 3 における後端部の外側面は、後脚 2 2 における上端部の内側面に剛結されている。連結フレーム 2 3 における前後の二箇所には、上下方向に貫通したねじ挿通孔 h 1 が設けられている。連結フレーム 2 3 のねじ挿通孔 h 1 に挿通されたねじ v 1 を、天板 1 に設けられたナット部 n 1 に螺着することにより、脚体 2 が天板 1 に取り付けられている。

40

【 0 0 3 0 】

連結フレーム 2 3 の前端部には当該連結フレーム 2 3 の内部空間が視認されないように片持ちフレーム 2 4 が連設されている。連結フレーム 2 3 における後端部の背面側には、隙間を介して連結架材 3 の幕板本体 3 1 が配されている。

【 0 0 3 1 】

片持ちフレーム 2 4 は、左右方向に直線状に延びてなる金属製の角パイプ材を主体に構成されたものである。片持ちフレーム 2 4 は、連結フレーム 2 3 の前端部から内方すなわ

50

ちデスクにおける左右方向中間部側に向かって突設されている。片持ちフレーム 2 4 の上面は、天板 1 の下面に添接し得るようになっている。片持ちフレーム 2 4 の基端部すなわち外側端部は連結フレーム 2 3 の前端部に剛結されている。

【 0 0 3 2 】

片持ちフレーム 2 4 は、天板 1 の下面における前後方向略中央の位置で取り付けされている。このため、片持ちフレーム 2 4 により、天板 1 の全体に対してバランスよく撓み防止の機能が発揮されている。

【 0 0 3 3 】

片持ちフレーム 2 4 の先端部には、キャップ Q が取り付けられている。キャップ Q は基端部が片持ちフレーム 2 4 の開口部に内嵌されており先端部に斜め下方を向く傾斜面 q 1 が設けられている。

10

【 0 0 3 4 】

片持ちフレーム 2 4 における左右の二箇所には、上下方向に貫通したねじ挿通孔 h 2 が設けられている。片持ちフレーム 2 4 のねじ挿通孔 h 2 に挿通されたねじ v 2 を天板 1 に設けられたナット部 n 2 に螺着することにより、脚体 2 が天板 1 に取り付けられている。なお、図 1 2 に示すように、キャップ Q の基端部にも、ねじ v 2 が挿通される上下方向に貫通したねじ挿通孔 h 2 a が設けられている。

【 0 0 3 5 】

この実施形態では、片持ちフレーム 2 4 の長手寸法 w 2 が、連結フレーム 2 3 の長手寸法 w 3 よりも短く設定されている。より具体的に言えば、片持ちフレーム 2 4 における左右方向の寸法 w 2 は、連結フレーム 2 3 における前後方向の寸法 w 3 の半分以下（より具体的には、連結フレーム 2 3 における前後方向の寸法の約三分の一の長さ）に設定されている。

20

【 0 0 3 6 】

連結架材 3 は、左右の脚体 2 における後部間を連結するものである。連結架材 3 は、金属製の板材を折り曲げることにより形成されている。連結架材 3 は、天板 1 の反使用端縁 1 e 側に配された幕板 3 A を含んだものである。

【 0 0 3 7 】

連結架材 3 は、幕板 3 A と、幕板 3 A の上端から前方に延設され配線案内溝 C を形成し得る配線案内溝形成部 3 B と、幕板 3 A の下端から前方に延出し上面を物品である配線類（図示せず）を載置し得る載置面 3 5 s とした棚板 3 C とを備えたものである。

30

【 0 0 3 8 】

幕板 3 A は、起立板状をなし背面視において略矩形状をなした幕板本体 3 1 と、幕板本体 3 1 の両側端部から当該幕板本体 3 1 に対して略直交する前方に延出し後脚 2 2 に接続する接続板 3 2 とを備えたものである。

【 0 0 3 9 】

幕板本体 3 1 は、左右の後脚 2 2 における上部間を埋めるように配設されている。幕板本体 3 1 における左右の上角部には、カバー体 D を位置決めし得る切欠部 i が形成されている。接続板 3 2 には上下二箇所にねじ挿通孔 h 3 が設けられている。接続板 3 2 に設けられたねじ挿通孔 h 3 に挿通されたねじ v 3 を後脚 2 2 に設けられたナット部 n 3 に螺着することにより、左右の脚体 2 と連結架材 3 とが連結されるものとなっている。

40

【 0 0 4 0 】

配線案内溝形成部 3 B は、幕板本体 3 1 の上端から前下方に延設された後溝壁 3 3 と、後溝壁 3 3 の下端から前方に向かって略水平に延設された底溝壁 3 4 とを備えたものである。

【 0 0 4 1 】

後溝壁 3 3 は、後傾した姿勢をなしている。すなわち、後溝壁 3 3 の前向面 3 3 s が、後方に向かって漸次上側に位置するように傾斜したものとなっている。

【 0 0 4 2 】

底溝壁 3 4 には、左右方向中央部、及び、左右両端部の三箇所に、配線類を上下方向に

50

連通させるための切欠部 3 4 a が形成されている。底溝壁 3 4 の前端部には複数箇所には上下方向に貫通したねじ挿通孔 h 4 が設けられている。底溝壁 3 4 のねじ挿通孔 h 4 に挿通されたねじ v 4 を天板 1 の後端部に設けられたナット部 n 4 に螺着することにより、連結架材 3 と天板 1 とが連結されるようになっている。

【 0 0 4 3 】

棚板 3 C は、上方を向く載置面 3 5 s を有した棚板本体 3 5 と、棚板本体 3 5 の前端部に立設された物品の落下抑制用の起立壁 3 6 とを備えたものである。棚板 3 C は、載置面 3 5 s に主として物品である配線類の一部を載せ置くことができるようにしたものである。

【 0 0 4 4 】

配線案内溝 C は、幕板 3 A の上端部に沿って設けられ上方に向かって開放されている。配線案内溝 C は、可動部材 B が配設される部分を除き、常に上方に開放されたものとなっている。配線案内溝 C は、後向面を有し左右方向に延びてなる前溝壁たる天板 1 の反使用端縁 1 e と、天板 1 の反使用端縁 1 e よりも後側に配設され前向面 3 3 s を有し左右方向に延びてなる連結架材 3 の後溝壁 3 3 と、上向面 3 4 s を有し天板 1 の反使用端縁 1 e と後溝壁 3 3 との下端部間に配された連結架材 3 の底溝壁 3 4 と含んで構成されたものである。配線案内溝 C の左右両端部は、それぞれカバー体 D により塞がれている。

10

【 0 0 4 5 】

配線案内溝 C には、例えば図 3 に示すように、可動部材 B が左右方向すなわち配線案内溝 C の長手方向に沿って移動可能に配設されている。可動部材 B が、配線案内溝 C に対してがたつくことなく配設されるようにするため、配線案内溝 C を構成する天板 1 の後向面と後溝壁 3 3 の前向面 3 3 s との間の離間寸法 w 1 は、上方に向かって漸次増大するように構成されている。

20

【 0 0 4 6 】

カバー体 D は、下方に開放されたボックス状をなしている。カバー体 D は、後脚 2 2 の上端部をカバーするとともに配線案内溝 C の両側部をカバーし得るものとなっている。

【 0 0 4 7 】

カバー体 D は、天壁 d 1 と、天壁 d 1 の前端部から下方に延設された前壁 d 2 と、天壁 d 1 の後端部から下方に延設された後壁 d 3 と、前壁 d 2 及び後壁 d 3 の外側端部間を繋ぐ外側壁 d 4 と、前壁 d 2 及び後壁 d 3 の内側端部間を繋ぐ内側壁 d 5 とを備えたものである。

30

【 0 0 4 8 】

前壁 d 2 の下端部には、特に図 1 4 ~ 1 6 に示されるように、前方に突出し天板 1 の後端部における側端部下面に係合し得る係合部 k 1 が設けられている。

【 0 0 4 9 】

後壁 d 3 の下端部には、図 1 5 に示されるように、下方に突出し後脚 2 2 における上端部の内面に係合し得る二つの位置決め突起 d 3 1 と、下方に突出し連結フレーム 2 3 における後端部の内面に係合し得る位置決め突起 d 3 2 が設けられている。

【 0 0 5 0 】

内側壁 d 5 の後部には、図 1 0 及び図 1 5 に示すように、内側方すなわちデスクにおける左右方向中央部側に向かって突設され幕板本体 3 1 の上端部外側縁と後溝壁 3 3 の外側縁とによって形成された挿入孔 G に挿入される凸部 k 2 が設けられている。内側壁 d 5 の下端縁には、下方に突出し、連結フレーム 2 3 における上端部の内側縁に係合し得る凸縁 d 5 1 が設けられている。

40

【 0 0 5 1 】

カバー体 D は、係合部 k 1 が天板 1 に係合し、位置決め突起 d 3 1 、 d 3 2 が後脚 2 2 及び連結フレーム 2 3 に係合し、凸縁 d 5 1 が連結フレーム 2 3 に係合するとともに凸部 k 2 が挿入孔 G に挿入されることによって、後脚 2 2 及び連結フレーム 2 3 の上に位置決めされるものとなっている。カバー体 D の内側壁 d 5 には、外方に向かって漸次上側に位置するように傾斜した傾斜面 d 5 s が形成されている。傾斜面 d 5 s は、配線案内溝 C の長手方向両端部を閉塞する閉塞面として機能するものであり、配線案内溝 C における両端

50

部のデザイン性を向上させている。

【 0 0 5 2 】

可動部材 B は、合成樹脂により形成されたものである。なお、この実施形態では、複数すなわち二つの可動部材 B が配線案内溝 C に配設されたものを示しているが、可動部材 B は、単数であってもよいし、三つ以上の複数であっても構わない。

【 0 0 5 3 】

可動部材 B は、天板 1 の上面 1 s と略面一をなす上向面 b 1 s と、上向面 b 1 s に隣接して設けられ下方に向かって凹んでなる凹陷部分 b 3 を有し当該凹陷部分 b 3 により物品であるスマートフォン P を起立した姿勢で支持し得るようにした機能部 J と、上向面 b 1 s よりも下に設けられ上方に向かって凹んだ形状をなし配線案内溝 C の底溝壁 3 4 と協働してトンネル T を形成し得るトンネル形成部 b 2 3 とを備えている。

10

【 0 0 5 4 】

可動部材 B は、上向面 b 1 s を有した上壁 b 1 と、この上壁 b 1 の左右両側端部から垂下した左右の垂下壁 b 2 と、上壁 b 1 の前端部に設けられた上向きコ字状の壁体により作られた凹陷部分 b 3 と、凹陷部分 b 3 の前に配された前壁 b 4 とを主体に構成されたものであり、複数のリブ r b により補強されたものとなっている。

【 0 0 5 5 】

上壁 b 1 は、上向面 b 1 s が設けられたものであり、平面視において矩形状をなしている。上壁 b 1 の底面側には、左右方向及び前後方向に延びた複数のリブ r b が設けられている。

20

【 0 0 5 6 】

左右の垂下壁 b 2 は、下端縁 b 2 1 が配線案内溝 C の底溝壁 3 4 に接し得るようになっている。左右の垂下壁 b 2 は、後端縁 b 2 2 が下方に向かって漸次前方に位置するように傾斜したものとなっている。左右の垂下壁 b 2 の後端縁 b 2 2 は、配線案内溝 C を構成する後溝壁 3 3 の前向面 3 3 s と係り合うようになっている。換言すれば、可動部材 B は、後溝壁 3 3 に係合し得る後係合部である左右の垂下壁 b 2 の後端縁 b 2 2 を備えている。

【 0 0 5 7 】

左右の垂下壁 b 2 における前後方向中間部には、上方に向かって凹んだ形状をなしたトンネル形成部 b 2 3 が設けられている。トンネル形成部 b 2 3 は、配線案内溝 C の底溝壁 3 4 と協働して底溝壁 3 4 上に載置された配線を左右方向に連通可能なトンネル T を形成している。

30

【 0 0 5 8 】

機能部 J は、上向面 b 1 s の前に設けられており、下方に向かって凹んでなり左右方向に延びてなる凹陷部分 b 3 を有している。機能部 J は、凹陷部分 b 3 を利用して種々の物品（主として概略板状の物品）を起立姿勢に支持させることができるものとなっている。例えば、図 1 7 に示すように、スマートフォン P の下端部を機能部 J の凹陷部分 b 3 に係り合わせることで、スマートフォン P を使用者の閲覧性に優れた起立姿勢に支持することができるようになっている。

【 0 0 5 9 】

前壁 b 4 は、前端部に位置し略鉛直方向に起立した形状をなしたものである。前壁 b 4 の前面 b 4 s は、前溝壁である天板 1 の反使用端縁 1 e と係り合うようになっている。換言すれば、可動部材 B が、前溝壁である天板 1 の反使用端縁 1 e に係合し得る前係合部たる前壁 b 4 の前面 b 4 s を備えている。

40

【 0 0 6 0 】

可動部材 B は、物品を載置し得る拡張的な載置面を形成し得るものとなっている。すなわち、天板 1 の上面 1 s と可動部材 B の上向面 b 1 s とが協働して物品を載置し得る載置面を形成し得るようになっている。換言すれば、可動部材 B は、天板 1 の反使用端縁 e 1 よりも奥側に、物品を載置できる領域を拡張し得るものとなっている。

【 0 0 6 1 】

例えば、図 1 8 に示すものは、配線案内溝 C に配設された二つの可動部材 B と、これら

50

二つの可動部材 B に隣接する天板 1 の後部とを協働させることにより、物品であるパソコンのディスプレイ M を天板 1 の後端縁よりも後に位置させることができるようになっている。

【 0 0 6 2 】

以上説明したように、本実施形態に係るデスクは、天板 1 の反使用端縁 1 e に上方に開放された配線案内溝 C が設けられたデスク本体 A と、配線案内溝 C に沿って移動し得るように当該配線案内溝 C に支持された可動部材 B とを備えてなるものである。

【 0 0 6 3 】

そして、可動部材 B が、天板 1 の上面 1 s と略面一をなす上向面 b 1 s と、上向面 b 1 s に隣接して設けられ下方に向かって凹んでなる凹陷部分 b 3 を有し当該凹陷部分 b 3 により物品を支持し得るようにした機能部 J と、上向面 b 1 s よりも下に設けられ上方に向かって凹んだ形状をなし配線案内溝 C と協働してトンネル T を形成し得るトンネル形成部 b 2 3 とを備えている。

10

【 0 0 6 4 】

このため、配線案内溝 C の使い勝手の良さを維持しつつ天板 1 の反使用端縁 1 e 側が物品を設置可能な領域として柔軟に利用され得る構成を備えたデスクを提供することができるものとなる。

【 0 0 6 5 】

つまり、可動部材 B の上向面 b 1 s が物品を設置可能な領域として好適に利用され得るものとなる。また、機能部 J により、物品を支持し得るものとなっているため、例えば、スマートフォン P を凹陷部分 b 3 に係り合わせて起立姿勢に支持することも容易にできるものとなる。

20

【 0 0 6 6 】

さらに、可動部材 B には、トンネル形成部 b 2 3 が設けられているため配線案内溝 C に案内された配線を無理なく左右方向に連通させることができるようになっている。

【 0 0 6 7 】

配線案内溝 C が、後向面を有し左右方向に延びてなる前溝壁たる天板 1 の反使用端縁 1 e と、反使用端縁 1 e よりも後側に配設され前向面 3 3 s を有し左右方向に延びてなる後溝壁 3 3 と、上向面 b 1 s を有し反使用端縁 1 e と後溝壁 3 3 との下端部間に配された底溝壁 3 4 と含んで構成されたものである。そして、反使用端縁 1 e の後向面（反使用端縁 1 e の端面）と後溝壁 3 3 の前向面 3 3 s との間の離間寸法 w 1 が、上方に向かって漸次増大するように構成されている。

30

【 0 0 6 8 】

このため、配線案内溝 C が、配線類を受け入れやすい好適な形態をなしたものとなっている。

【 0 0 6 9 】

可動部材 B が、反使用端縁 1 e に係合し得る前係合部たる前面 b 4 s と、後溝壁 3 3 に係合し得る後係合部たる後端縁 b 2 2 とを備えている。

【 0 0 7 0 】

このため、可動部材 B は配線案内溝 C に対してがたつき難いものとなっている。

40

【 0 0 7 1 】

前溝壁が、天板 1 の反使用端縁 1 e により構成されたものであり、後溝壁 3 3 が、天板 1 の反使用端縁 1 e 側に配された幕板 3 A から延設されたものである。

【 0 0 7 2 】

このため、配線案内溝 C は、天板 1 及び幕板 3 A から延設された部位が利用されたシンプルな構成により実現されたものとなっている。

【 0 0 7 3 】

後溝壁 3 3 の前向面 3 3 s が、後方に向かって漸次上側に位置するように傾斜したものである。このため、可動部材 B ががたつき難い構成を、後溝壁 3 3 の前向面 3 3 s を傾斜させることにより好適に実現されたものとなっている。

50

【 0 0 7 4 】

天板 1 を支持する左右の脚体 2 を有し、これら左右の脚体 2 が幕板 3 A により連結されている。このため、左右の脚体 2 が、幕板 3 A に対して安定した姿勢を採り得るものとなっている。

【 0 0 7 5 】

配線案内溝 C が、幕板 3 A の上端部に沿って設けられたものである。このため、配線案内溝 C は、使用者の執務に支障を与えない好適な位置に設けられたものとなっている。しかも、配線案内溝 C は、幕板 3 A に連設された部位を利用して好適に形成されたものとなっている。

【 0 0 7 6 】

天板 1 の上面 1 s と可動部材 B の上向面 b 1 s とが協働して物品を載置し得る載置面を形成し得るようになっている。

【 0 0 7 7 】

このため、可動部材 B の上向面 b 1 s をいわゆる拡張天板面として好適に利用し得るものとなっている。つまり、可動部材 B の上向面 b 1 s と天板 1 の上面 1 s とが協働することにより、天板 1 の反使用端縁よりも後方に物品を載置可能な領域を拡張することができるため、例えば、ディスプレイ M 等の比較的大きな物品を執務者から離れた好適な位置に配設することができるものとなっている。

【 0 0 7 8 】

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【 0 0 7 9 】

配線案内溝は天板の反使用端縁側に設けられたものであればよく、その具体的な構成は上述した実施形態に示されたものに限定されるものではない。

。

【 0 0 8 0 】

デスク本体の形態も種々の形態を採り得るものであることは言うまでもない

。

【 0 0 8 1 】

可動部材の機能部は、下方に向かって凹んでなる凹陷部分により物品を支持し得るものであればよく、上述したような上方及び左右方向に開放された形態のものに限られるものではない。

【 0 0 8 2 】

また、機能部に支持される物品は、どのようなものであってもよい。

【 0 0 8 3 】

配線案内溝は、前溝壁の後向面と後溝壁の前向面との間の離間寸法が、上方に向かって漸次増大するように構成されているものであればよく、その具体的な形態は上述した実施形態のものには限られない。例えば、前溝壁の後向面（例えば、天板の反使用端縁）を傾斜面としたものであってもよいし、前溝壁の後向面及び後溝壁の前向面をそれぞれ傾斜面としてもよい。

【 0 0 8 4 】

デスク本体の配線案内溝に配設される可動部材の数は、単数であってもよいし二以上の複数であってもよい。

【 0 0 8 5 】

その他、各部の具体的な構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 8 6 】

A ... デスク本体

B ... 可動部材

C ... 配線案内溝

10

20

30

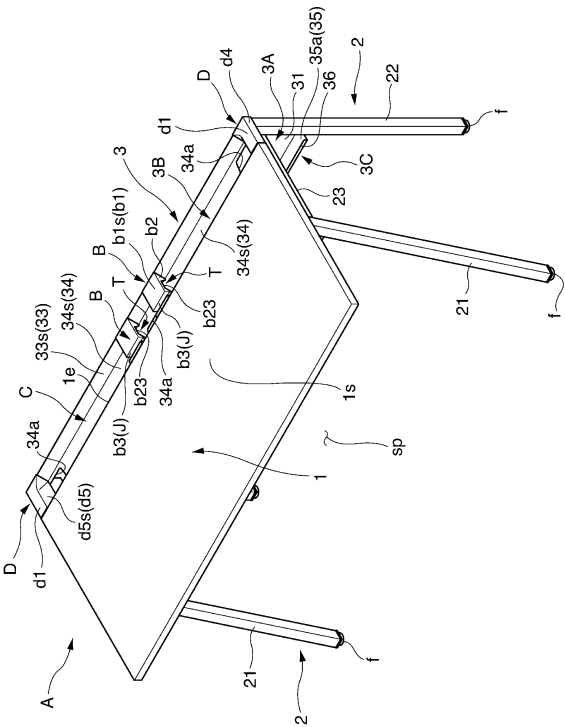
40

50

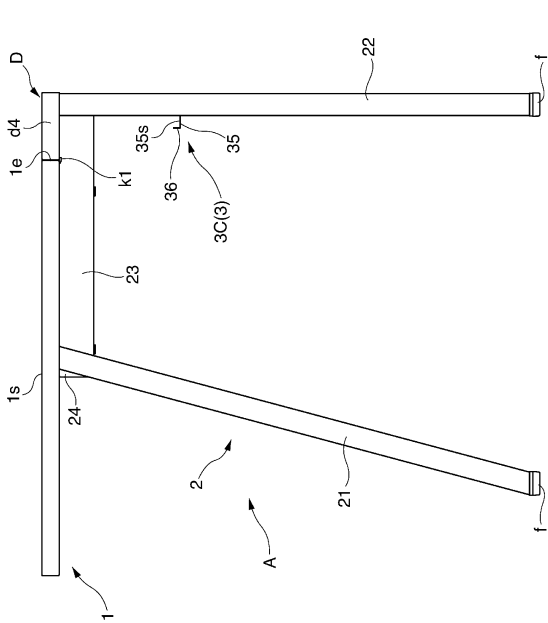
- D ... カバー体
- 1 ... 天板
- 2 ... 左右の脚体
- 3 ... 連結架材

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

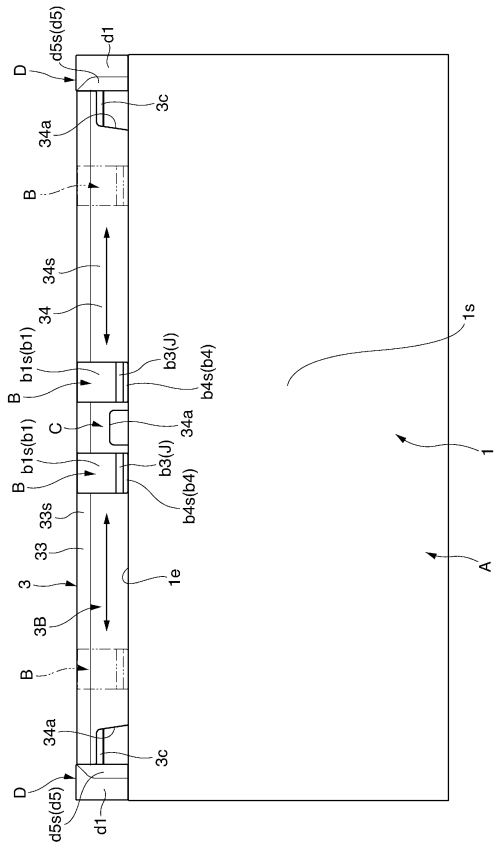
20

30

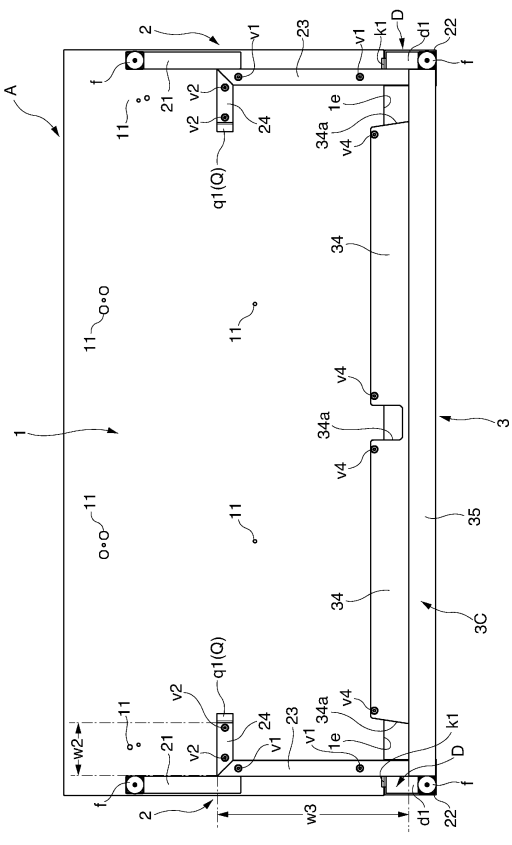
40

50

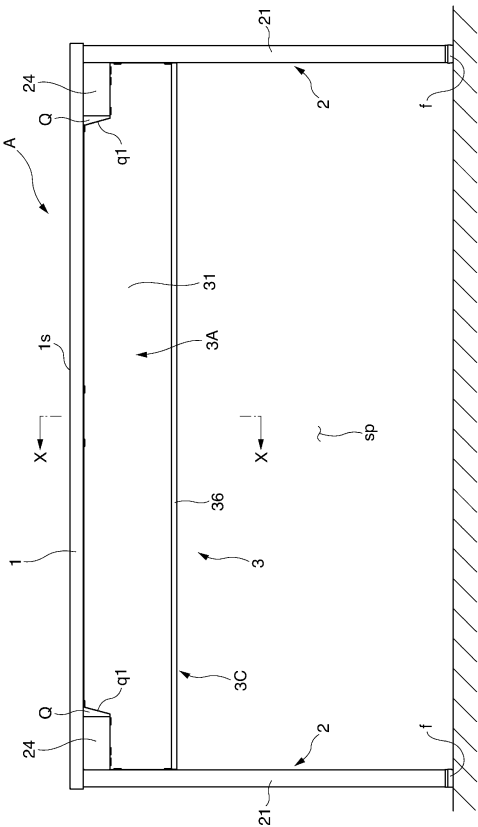
【図 3】



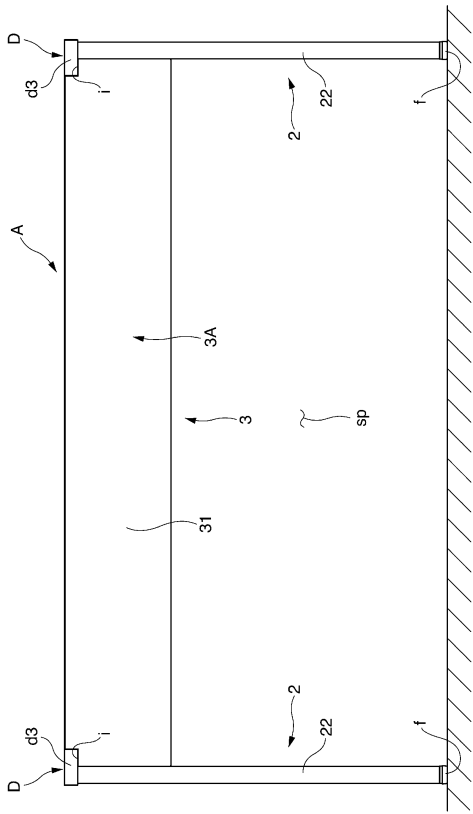
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

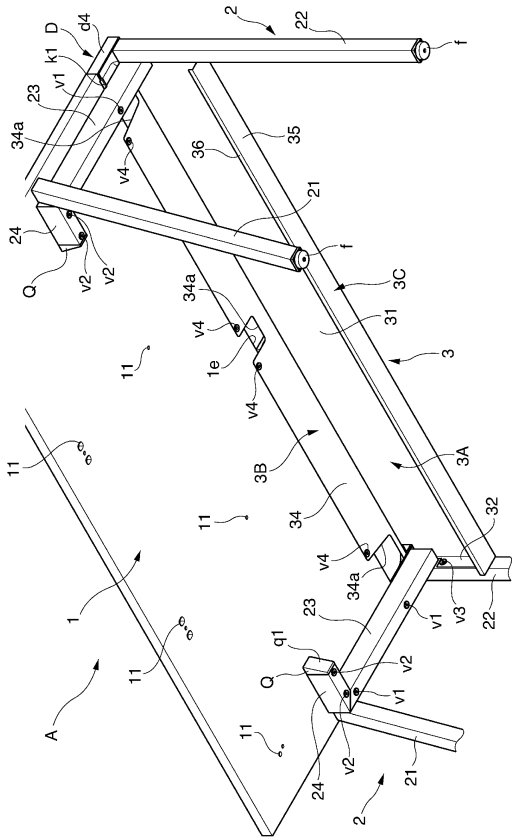
20

30

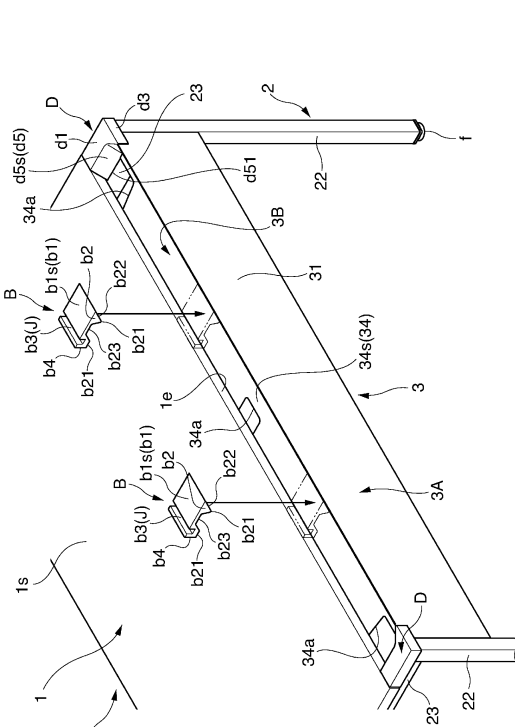
40

50

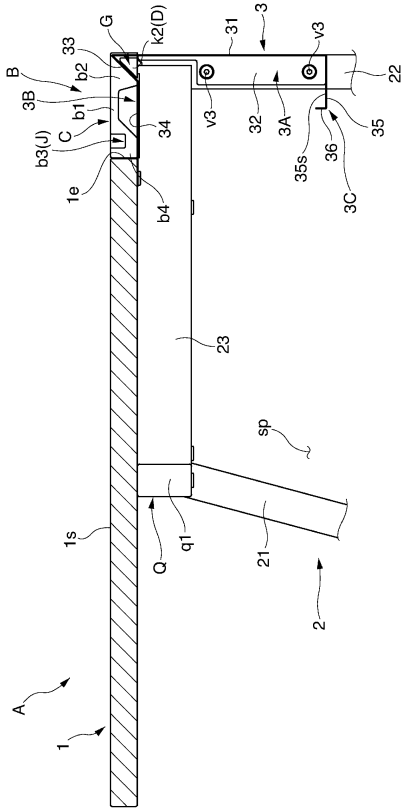
【図 7】



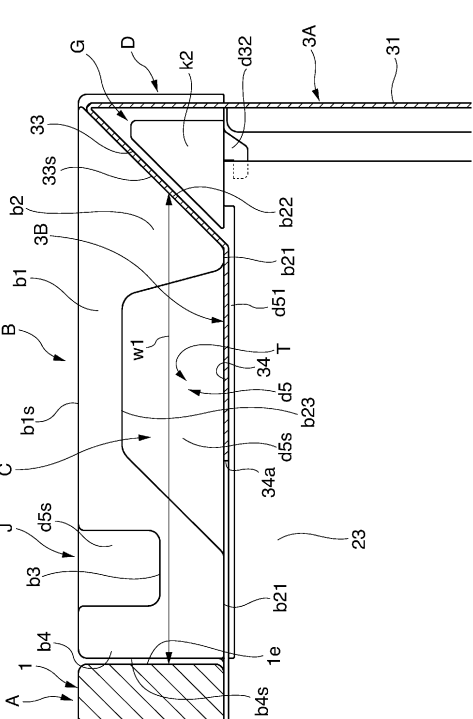
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

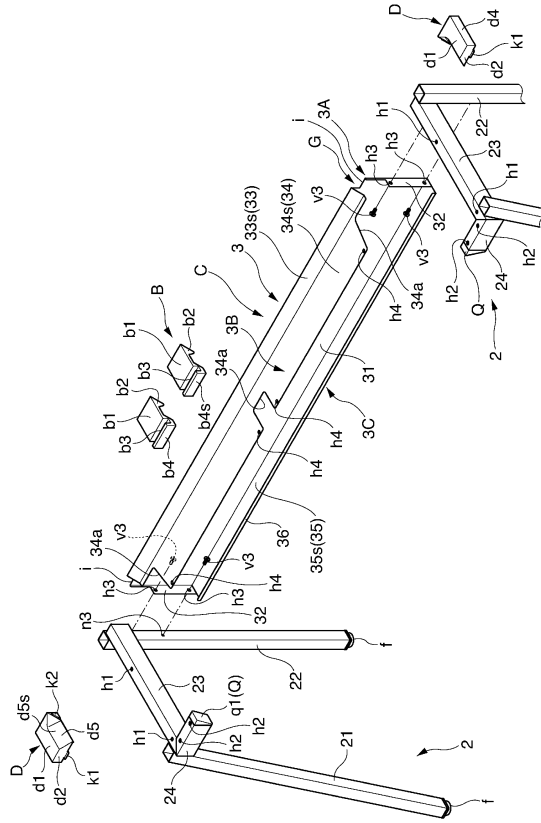
20

30

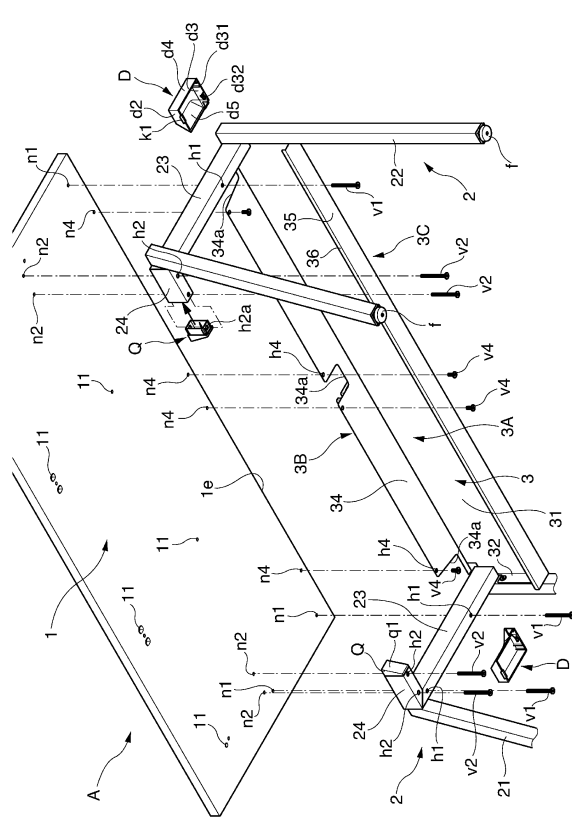
40

50

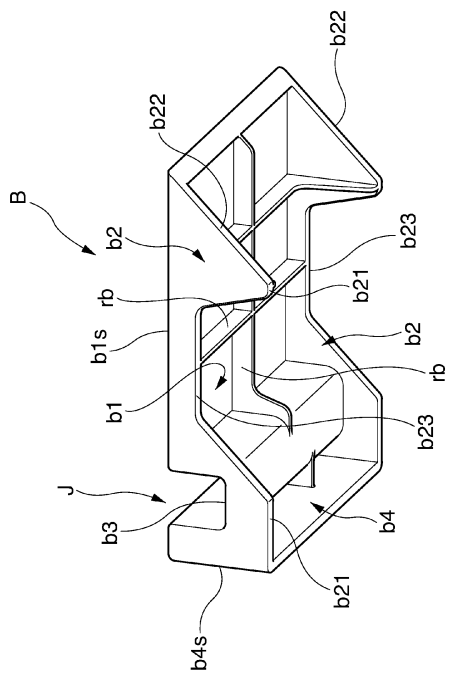
【 図 1 1 】



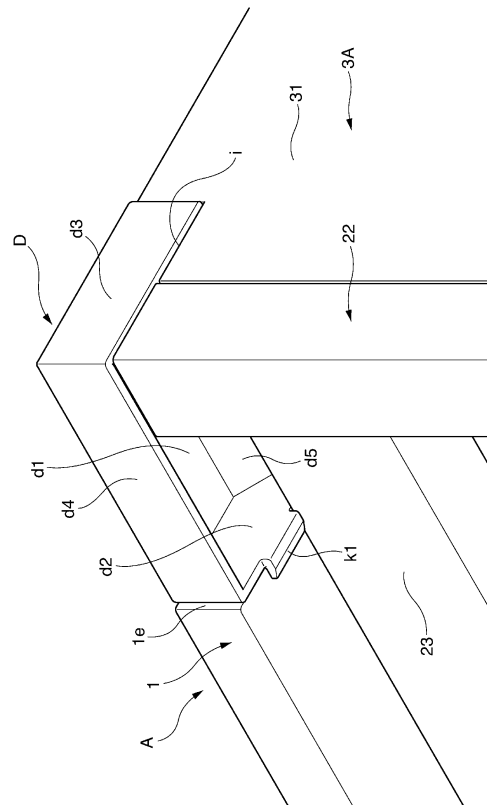
【 図 1 2 】



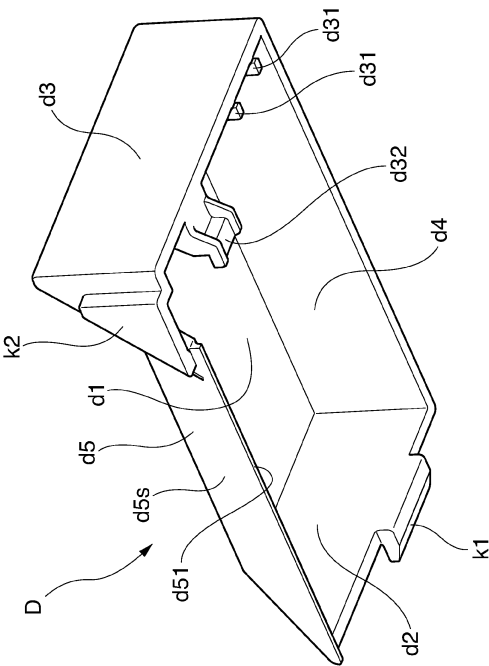
【 図 1 3 】



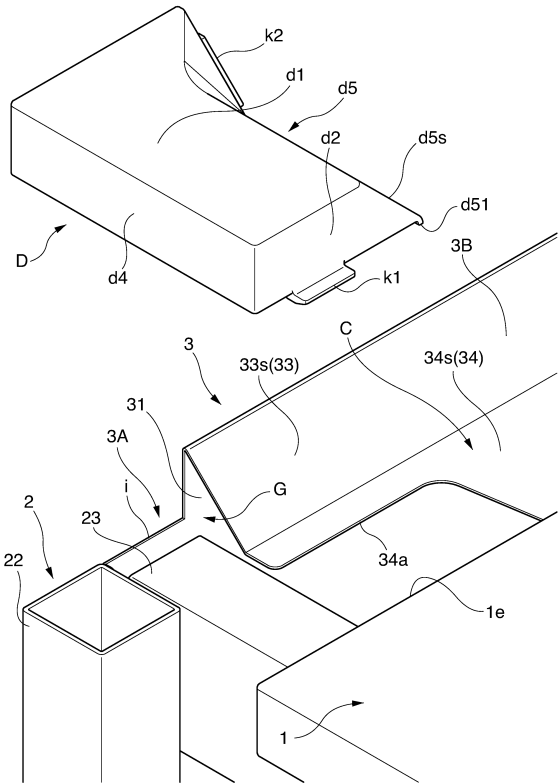
【 図 1 4 】



【図 15】



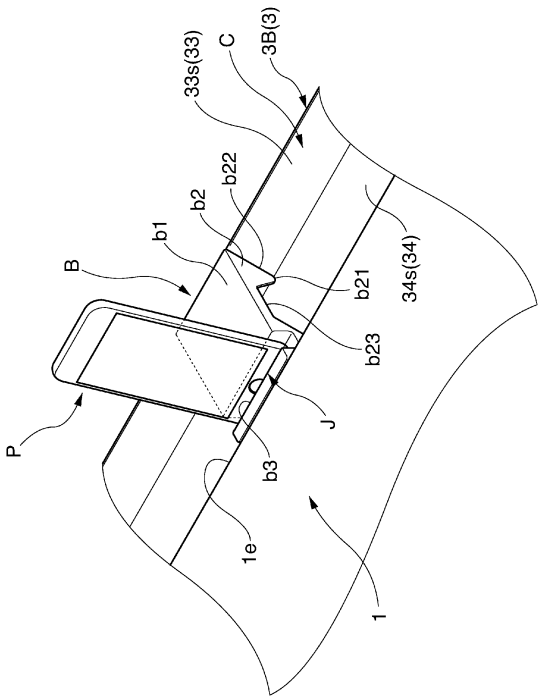
【図 16】



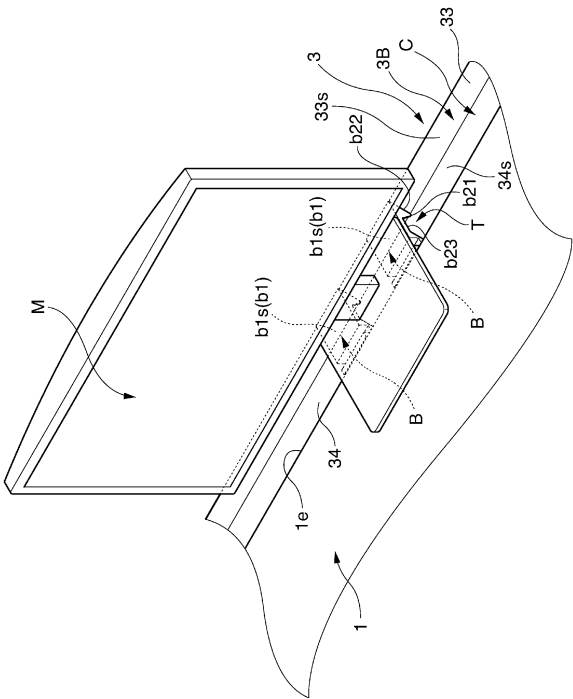
10

20

【図 17】



【図 18】



30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 独国特許出願公開第 1 0 2 0 1 6 1 2 0 0 1 3 (D E , A 1)
特開 2 0 1 4 - 1 5 1 0 7 5 (J P , A)
特開 2 0 0 0 - 0 4 1 7 5 2 (J P , A)
特開 2 0 1 3 - 1 5 3 8 7 7 (J P , A)
実開平 0 5 - 0 6 3 3 3 2 (J P , U)
米国特許出願公開第 2 0 1 9 / 0 0 2 9 4 1 5 (U S , A 1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- | | |
|---------|-----------|
| A 4 7 B | 1 3 / 0 0 |
| A 4 7 B | 1 3 / 0 2 |
| A 4 7 B | 1 7 / 0 0 |
| A 4 7 B | 2 1 / 0 0 |
| A 4 7 B | 6 3 / 0 4 |
| G 0 6 F | 1 / 1 6 |